

大学・企業連携による ICT 導入・活用事例紹介

日時：9月2日（木）12:30～17:00

9月3日（金）10:00～18:00

会場：5F 廊下

ポスターセッション形式による、大学・企業共同の ICT 導入・活用事例の紹介です。
5F 廊下での実施ですので、自由にご覧下さい。

※次ページに各大学と協力企業の配置を番号（下記一覧の No.）で掲載しております

No.	導入事例	大学	協力企業
1	明治大学におけるクリッカー活用事例	明治大学	チエル(株)
2	佛教大学 離脱者ゼロの実現に向けて SNS(ソーシャルネットワークサービス)導入によるオンライ ンコミュニティの構築・運用	学校法人 佛教教育学園 佛教大学	(株)コスモ・インタラクティブ
3	Flashビデオ対応 動画教材作成システム/コンテンツマ イスター	関西大学	パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)
4	授業レポートシステム事例	獨協大学	富士ゼロックス(株)
5	「学外実践実習を支援するポートフォリオ機能」 -Blackboard ポートフォリオ機能を利用して-	玉川大学リベラルアーツ学部	(株)CSK システムズ
6	クラウド型ポートフォリオシステム『manaba folio(マナバフ ォリオ)』を活用した「学修カルテ」及び「入学前教育」の取 り組み	立命館大学 国士舘大学	(株)朝日ネット
7	上智大学 テレビセンターシステム2009	上智大学	電子システム(株)
8	創価大学 出席確認システム 立正大学 キャリア支援システム	創価大学 立正大学	シャープシステムプロダクト(株)
9	コミュニケーションを重視した利便性の高い教育環境	大阪体育大学	(株)日立製作所
10	大学での利用形態にあわせた、機能と安全性、安定性を 備えたクラウド型メールサービス	武蔵大学	伊藤忠テクノソリューションズ(株)
11	授業支援システム「IT's class.」の全学導入から活用まで	成蹊大学	日立公共システムエンジニアリング(株)
12	明治大学におけるSuica付学生証導入事例	明治大学	東芝プラントシステム(株)
13	セキュリティを重視し学内運用する Web メール導入事例	工学院大学	(株)トランスウエア
14	東北工業大学「統合演習システム」での V-Boot 活用事 例	東北工業大学	(株)アルファシステムズ
15	学習ウェブ基盤 コース管理システム「dot Campus」全学 導入/「dot Campus」でコミュニケーション・蓄積・振り返 りを実践	神奈川大学 慶應義塾大学薬学部	インターレクト(株)

●各大学と協力企業の配置 5 F

窓（壕側）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
明治大学	佛教教育学園 佛教大学	関西大学	獨協大学	玉川大学	立命館大学 国土館大学	上智大学	創価大学 立正大学	大阪体育大学	武蔵大学	成蹊大学	明治大学	工学院大学	東北工業大学	神奈川大学 慶應義塾大学
チエル	コスモ・インタラクティブ	パナソニック	富士ゼロックス	CSKシステムズ	朝日ネット	電子システム	シャープ	日立製作所	伊藤忠テクノ	日立公共	東芝プラント	トランスウエア	アルファシステムズ	インターレクト

受付、エレベータ

廊下

(テーマ別自由討議／発表会場)

●事例の概要紹介（討議・発表会場でのプレゼンテーション）スケジュール

テーマ別自由討議や発表会場にて、昼休憩の前に、各事例の概要紹介を行いますので、ぜひご覧下さい。

9月2日(木)

	5F大雪西 分科会A	5F大雪東 分科会B	5F穂高西 分科会C
12:30	伊藤忠テクノソリューションズ	シャープ・システムズ・ロダック	朝日ネット
12:33	富士ゼロックス	CSKシステムズ	インターレクト
12:36	コスモ・インタラクティブ	東芝プラントシステム	

9月3日(金)

	5F穂高東 発表A	5F穂高西 発表B	5F大雪東 発表C	5F大雪西 発表D	6F阿蘇西 発表E
11:50	トランスウエア		日立製作所		アルファシステムズ
11:53	日立公共システム				電子システム

●事例内容

No.1 明治大学におけるクリッカー活用事例

明治大学／チエル（株）

明治大学で 2010 年度から利用しているクリッカーの活用事例をします。双方向型の授業を展開するためのツールとして注目を集めているクリッカー（レスポンス・システム）ですが、授業における利用はもちろん、授業以外のシーンにおいても利用を推進し、効果を上げはじめています。

【参考 URL】

明治大学 和泉メディアサービス <http://www.meiji.ac.jp/wsys/>

明治大学 教育の情報化推進本部 <http://www.meiji.ac.jp/edu-info/>

チエル 株式会社 <http://www.chieru.co.jp/>

No. 2 離脱者ゼロの実現に向けて

SNS（ソーシャルネットワークサービス）導入によるオンラインコミュニティの構築・運用 学校法人 佛教教育学園、佛教大学／（株）コスモ・インタラクティブ

佛教大学の「縁（えにし）コミュニティ」による離脱者ゼロ計画は、平成 19 年度文部科学省の新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムに採択されました。コスモ・インタラクティブは、そのコミュニティを支える SNS を、汎用性・利便性に立った改善を行う役割を担い、平成 22 年 4 月「新縁 SNS」がリニューアルオープンしました。

【SNS 開発の特色・コスモ・インタラクティブの WEB 構築サービスとして・】

- 1) 学生の意見を取り入れた開発
 - ・ユーザビリティ、デザイン、キャラクター導入など、メインユーザーである学生とのディスカッションを重ね開発
- 2) 利用促進のためのプロモーション支援
 - ・広報ブログの導入
 - ・入門ゼミでのログイン促進応援、説明会支援など
- 3) きめ細かな運用、さらなる改善のための機能提案
 - ・よりよいサービスを提供し続けるための、保守・運用、追加改善

【成果】

- 1) 利用率の向上(学生、教員、職員)
- 2) SNS による、学生間（例：支援上回と 1 回生）での結びつき強化
- 3) SNS による、教員・学生間の授業以外でのコミュニケーション
- 4) SNS による、学生支援部署の連携推進
- 5) 学生による自発的なコミュニティの形成と活性化

No. 3 Flash ビデオ対応 動画教材作成システム／コンテンツマイスター

関西大学／パナソニックシステムソリューションズジャパン（株）

「コンテンツマイスター」はセミナーや講義で利用されている PC 映像だけでなく講師の話している姿や黒板／白板の板書を含めて映像化し、講義そのままを丸ごとコンテンツ化するシステムです。

類似したコンテンツ作成システムも多数ありますが、「高画質」「Flash ビデオ対応」「ブラウザベースでの編集」等が採用検討時の評価が高かったポイントです。

特徴 1) 高画質なコンテンツを簡単作成

高画質の 1 動画（講師映像）又は 2 動画（講師映像＋講義資料）のコンテンツをリアルタイムに作成できます。

特徴 2) ボタンを押すだけで撮影・録画。編集も可能。

専門化不要の簡単な収録操作です。編集も、レイアウト、静止画挿入、テキスト追加、不要シーンのカットなど簡単に行えます。

特徴 3) コンテンツをストリーミング配信可能

配信サーバを導入すると、学校内だけでなく自宅からでもインターネットを経てコンテンツを視聴できるようになります。

No. 4 授業レポートシステム事例

獨協大学／富士ゼロックス（株）

大学では、様々な目的のアンケートやレポートが行われています。しかしながら、大学全体の授業評価アンケートは、「設問が定型的」、「学期末のみ実施」といった傾向があり、Web アンケートでは、「PC 設備が必要」、「利用環境が限定される」などの制約が課題となっています。

本事例は、そうした問題点を解決し、教員個々の授業改善への取り組みを支援するために、獨協大学－富士ゼロックスで共同開発したシステムです。

教員が自由に利用できることにより、教員自らが担当授業科目に適したアンケートや小テストなどを作成し、学生が手書き記入した回答済アンケートを即日集計レポートニングすることができます。

これにより、下記効果を生み出しています。

1. 学生の授業理解度や意見・感想の把握
2. 教員の授業改善、工夫の促進
3. 教員と学生のコミュニケーション強化

No. 5 「学外実践実習を支援するポートフォリオ機能」－Blackboard ポートフォリオ機能を利用して－

玉川大学リベラルアーツ学部／(株) CSK システムズ

玉川大学リベラルアーツ学部では、キャリア形成を意識しながら、時代の変化に柔軟に対応できる人材を育成するために、実験、実習、調査などの体験型学習を積極的に取り入れ、「学外実践実習」として単位認定している。

学生は各自の計画に応じて、研修先を決定し、実習を開始する。学外での実習を把握、記録する仕組みとしてこれまでは、「実習ノート」と呼ばれる実習日誌、実習報告書等を手書きで記録することが行われてきた。これらの実習開始前の手続き（実習先との覚書、実習計画）から、実習中の実習記録、実習後の報告書作成、外部評価などを現在コース管理システムとして利用している Blackboard システムのポートフォリオ機能（Content Management モジュール）を利用することを検討し、その可能性を検証した。

特に利点としてあげられることは、各自の実習報告を学外へも容易に発信し評価を得られることである。

No. 6 クラウド型ポートフォリオシステム『manaba folio (マナパフォリオ)』を活用した「学修カルテ」及び「入学前教育」の取り組み

立命館大学、国土館大学／(株) 朝日ネット

クラウド型ポートフォリオシステム「manaba folio」は、ゼミ・専門課程をはじめさまざまな授業で、学生一人ひとりの学習成果をフォローする教育支援システムです。

◆おもな特徴◆

- ・学生一人ひとりにポートフォリオスペースを提供。レポートや資料などを蓄積していくことができます。
- ・4年間の学習成果を蓄積することにより、学生の就業力育成に効果的です。
- ・クラウド型のサービスのため、大学はサーバーの準備・保守などの必要が無く、小規模（学科単位・教員単位）でもご利用できます。また、申込から1ヶ月以内での利用開始も可能です。
- ・34大学への導入の実績（2010年7月末時点）

◆立命館大学 ポートフォリオによる学修カルテの取り組み

- ・学生は経年的にキャリアチャートや学習目標を蓄積
- ・教員は学生の指導履歴を蓄積、共有
- ・学生の自己啓発と自律的な人間成長を支援

◆国土館大学 入学前教育での取り組み

- ・入学前教育から初年時教育への連続性
- ・学習意欲の向上と学生ケア
- ・入学辞退者の防止

No. 7 上智大学 テレビセンターシステム2009

上智大学／電子システム(株)

[導入背景]

上智大学では、映像の分野で活躍する人材の育成を目的とした教授法があり、テレビセンターにおいて学芸員課程受講者を中心に、映像コンテンツ制作実習によるメッセージ表現の方法を指導していますが、今日における映像情報の多様化、メディア環境の多様化に伴い、従来の Standard Definition のシステムから、地上デジタル放送対応 High Definition のシステムへと更新し、さらにそれらのコンテンツの編集が可能な最新鋭の編集機材を導入しました。

[導入目的]

テレビセンターでの教育は、実習を主体とした映像の制作によって、コンテンツ作成に関する総合的な理解をすることと、各過程（プロジェクトの立案、進行管理、撮影、編集、データ加工等）における技術の習得を目指します。さらに、実技を通して受け手側から見た映像コンテンツに対する解釈、理解能力の向上を図ります。

またテレビセンターで使用される機材は、本学の e-ラーニング教材作成やオープンコースウェア用コンテンツ作成など、幅広く活用していくことを目的としています。

No. 8 創価大学 出席確認システム／立正大学 キャリア支援システム

創価大学、立正大学／シャープシステムプロダクト（株）

創価大学 出席確認システム

教室に設置したリーダー端末に、ICカード学生証をかざすだけで学生の出席情報をサーバに自動収集します。教職員は勿論のこと学生自身もWeb画面で出欠状況をリアルタイムに参照可能です。欠席が多い学生への早期フォローにも活用が出来ます。

立正大学 キャリア支援システム

学生の入学～卒業までのキャリア支援に関する情報を一元管理すると共に、外部の企業情報サイトとの連動などを含め情報共有化を実現。ポータルとも連携しキャリア支援に関する情報を学内外のどこからでもいつでも自由に参照できる環境を構築。

No. 9 コミュニケーションを重視した利便性の高い教育環境

大阪体育大学／（株）日立製作所

UNIPROVE/CW と UNIPROVE/IM の導入により、コミュニケーションを重視した利便性の高い教育環境を提供。

1. 教員、職員、学生がスムーズに情報共有
→Web型コラボレーションウェア UNIPROVE/CW で、システム管理者に頼ることなく事由にグループを結成。
2. 運用負担の軽減に貢献
→データ通信基盤 UNIPROVE/IM なら、異なるシステムでも最小限の工数でセキュアに連携。
3. TCO を削減
→システム管理コストを軽減しつつ、質の高い教育環境を構築

No. 10 大学での利用形態にあわせた、機能と安全性、安定性を備えたクラウド型メールサービス

武蔵大学／伊藤忠テクノソリューションズ（株）

武蔵大学では、セキュリティに配慮した安定した環境で利用することを目的として、職員向けのメールに、CTC の教育機関様向けクラウド型メールサービスを採用しました。

【CTC のクラウド型メールサービス『A-Cloud Mail』の特徴】

- ・教育機関様向けの、機能、安全性、安定性を備えたメールサービスです。
- ・学内、学外、携帯電話からでも、いつでもどこからでもメールの利用が可能です。
- ・20年以上の運用実績があり、最高レベルのセキュリティを備えた弊社国内データセンターで、メールサービスのご提供を致します。サービス基盤については、24時間365日の監視・運用をしています。
- ・ウィルス対策、スパム対策機能を標準でご提供しています。
- ・電話・メール受付のサポートセンターにて、サービスに関するお問合せ、設定変更やトラブルシューティングに対応いたします。
- ・パッチあてや、バージョンアップの作業は不要ですので、管理者の負担を軽減します。
- ・新年度対応や、多言語対応、電話でのサポートデスク対応等、教育機関様で必要な機能やサービスが充実しています。

No. 11 授業支援システム「IT's class.」の全学導入から活用まで

成蹊大学／日立公共システムエンジニアリング（株）

教員や学生のロコミで、「IT's class.」を授業で活用する教員が10倍に。成蹊大学殿の全学導入当初から現在に至るまでの、「IT's class.」の推進方法や運用の状況、IT's class.を取り入れた授業のメリットについて、成蹊大学の活用事例を展示いたします。

導入するだけでなく、広く全学で活用される授業支援システムであるためには何が必要なのか、を考え続けた大学と開発ベンダ双方の工夫をぜひご覧下さい。

No. 12 明治大学における S u i c a 付学生証導入事例

明治大学／東芝プラントシステム（株）

2008年11月に国内初の導入となった「明治大学における S u i c a 付学生証導入事例」のご紹介です。

証明書自動発行機の認証と発行手数料の決済、図書館の入館と貸出、食堂や売店の支払い、さらに大学の外（駅ナカ、街ナカ）での買い物の決済に利用できるなど、利用シーンの多い S u i c a を採用することにより学生にとって便利な機能を学生証に搭載しました。

学生証を使用したサービスを広げることにより、学生証の価値の向上、携帯率の向上等の効果が期待できます。

導入までの経緯や導入後の運用、今後の活用計画などについてご紹介いたします。

No. 13 セキュリティを重視し学内運用する Web メール導入事例

工学院大学／（株）トランスウエア

工学院大学では、約9,000名規模の全学で Active! mail を使用しており、そのうち大学院、大学では、最新バージョンの Active! mail 6 を2010年8月からバージョンアップして利用しています。

同大学では、いわゆるクラウド型の無償の Web メールの使用については、メールアドレスをどのように利用されているかが不明というセキュリティ面の不安から、方針として採用しないと選択。既存サーバへの導入も楽に行なうことができ、IMAP でデータを学内で一元管理ができ安心などの点から Active! mail 6 を採用し、メールサーバ2台、Active! mail 6 がインストールされた Web サーバ2台という冗長構成で、全て学内にて運用がされています。

No. 14 東北工業大学「統合演習システム」での V-Boot 活用事例

東北工業大学／（株）アルファシステムズ

東北工業大学では、平成22年4月から新しい演習室システム「統合演習システム」を稼働させた。これまでは演習室ごとに個別のシステムを導入・運用していたが、今春のシステム更新で、全学の演習室環境を統合・整備した。

演習室環境の統合のためには、ID一元管理のための認証基盤の統合や、場所を選ばないアプリケーション利用のためのアプリケーション配信システムの導入などを行ったが、最も重要な役割を担っているのが、OS・アプリケーションを一元管理するためのシンクライアントシステムである。

シンクライアントシステムには、アルファシステムズ社の V-Boot を採用した。V-Boot は、ネットワークブート方式とクローニング方式の良い部分をハイブリッドで取り入れた製品で、全学の演習室環境の管理・運用を容易にするものである。今回の発表では、V-Boot 導入のメリットと導入後の運用状況の報告や運用時のノウハウについて発表する。

No. 15 学習ウェブ基盤 コース管理システム「dot Campus」全学導入／「dot Campus」でコミュニケーション・蓄積・振り返りを実践

神奈川大学、慶應義塾大学薬学部／インターレクト（株）

< 9月2日 学習ウェブ基盤 コース管理システム「dot Campus」全学導入：神奈川大学 >

同大学では、学部学科単位で異なる授業支援システムを導入していたことから、機能が限定的であり、導入されていない学部学科では利用できないこと、教員自身が行うシステム作業が多いなどの問題点がありました。それを解決するために2009年4月から「dot Campus」の全学導入が始まり、導入2年目にして、月間ユーザ数が倍増しました。配布資料・Xペーパー（著作権を配慮したダウンロード防止機能）・小テスト・お知らせ・掲示板・自己履修登録などの機能中心に活用しています。それにより、本来の仕事である教育に時間を使えるようになり、煩雑な作業が軽減されたと大学から評価されています。また、利用者数を伸ばし、システムの定着をはかるための大学とベンダー双方の取り組みについても紹介します。

< 9月3日 「dot Campus」でコミュニケーション・蓄積・振り返りを実践 慶應義塾大学薬学部 >

同大学薬学部では、「dot Campus」を使い「ヒューマンズ教育」のカリキュラムの柱である「コミュニケーション」「蓄積」「振り返り」を実践しています。プロセスを重視する教育に、「dot Campus」が不可分の要素として組み込まれていることを下記の項目ごとに紹介します。

- ・積極的なグループ学習—学生同士の協力とコミュニケーション
- ・教員と学生のコミュニケーション
- ・目標設定と振り返り
- ・学習内容・学習成果の蓄積
- ・大学での成果を持って社会へ巣立つ